

令和元年度 内閣府調査事業 報告

(2020. 9. 28)

北海道発明協会



■北海道は3年目

■構成は9名の委員（現職教員3名、教育委員会関係者3名、発明クラブ1名、企業経営者2名）、政府関係者2名

■地域コンソーシアム会議2回、教育プログラム実証1件（知財創造教育の説明会、意見交換会を同時開催）

■地域コンソーシアム会議（検討項目）

- ☞ 1. 教員が知財創造教育に取り組むための環境整備
- 2. 地域主体の新地域コンソーシアム構築
- 3. 教育プログラム実証、知財創造教育の説明会、意見交換会
（この他「秀でた尖った人材の育成」についても検討）

■教育プログラム実証

- ☞ 札幌市立宮の丘中学校で実施

教員が知財創造教育に取り組むための 環境整備

《現状認識》

- 知財創造教育普及の足掛かりとなる
- ☞ 場や集まりはある
- ☞ 普及し得る人も挙げられる
- ☞ コーディネートできそうな候補者もいる
- ☞ 教材の類例もある

《現状の環境》

- 知財創造教育に関して
- ☞ 教育現場から全体像が見えていない
- ☞ 教員が主体的に進めるエンジンがなくこのままでは進まない

学校、教員を後押し
する仕組みが必要

見学



学校、教員が進める知財創造教育
活動を支援する

交流



教育委員会

学校

機関の設置

教材の提供



地域・企業

授業の提供



2-①

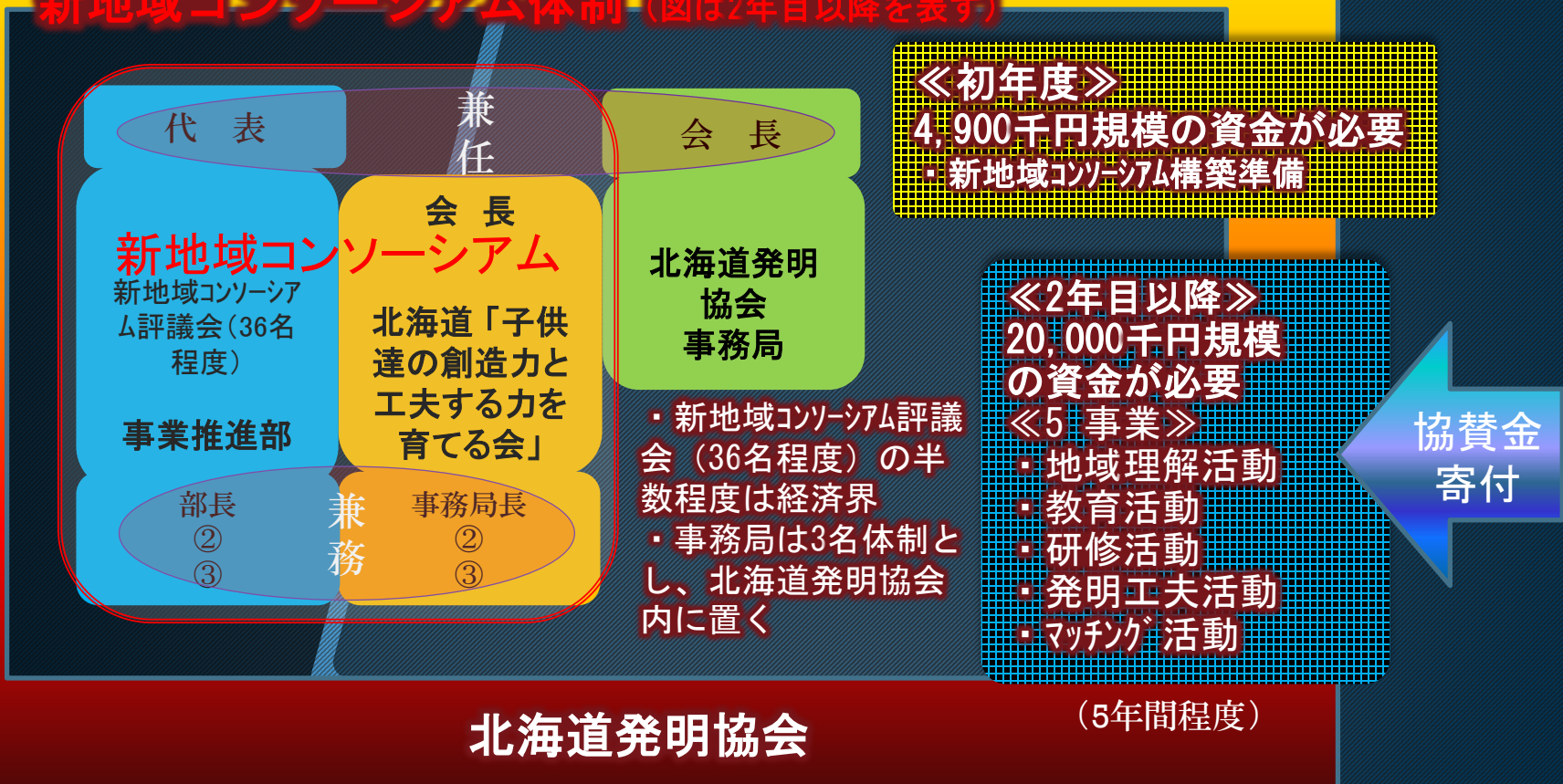
地域主体の新地域コンソーシアム構築

構築に向けた基本認識

☛ 昨年度の北海道地域の報告を踏まえ、事業を行う新地域コンソーシアムを構築する
(前頁で言う機関に相当)

- ☛ 知財創造教育の実施、教員の育成等、普及に向けた環境整備
- ☛ 地域連携、地域からの資金的支援が必要
- ☛ 知財創造教育普及段階では事業を縮小

新地域コンソーシアム体制 (図は2年目以降を表す)



2-②

地域主体の新地域コンソーシアム活動の展開



教育界



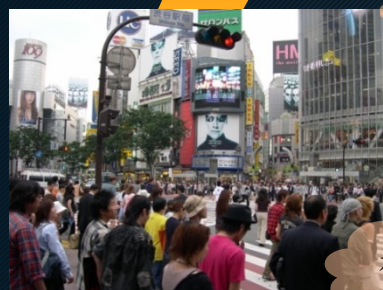
マッチング

地場産品活用



インターンシップ

講師派遣



地域

社会見学

講師派遣

新地域コンソーシアムが 懸け橋として機能

知財授業

企業



教員育成

知財創造教育、キャリア教育等々、教育界と地域社会・企業を結び付ける、これまでにない「事業モデル」として発展性

次世代を担う 子供達を育成する 未来への投資 北海道コンセプト

《課題》 新地域コンソーシアム活動の「社会的意義・役割の浸透」

教育プログラムの実証、 知財創造教育の説明会、意見交換会

教育プログラムの実証

- ・ 札幌市立宮の丘中学校
- ・ 令和2年2月12日
- ・ 同校2年生32名
- ・ 講師：同校教諭
- ・ 教科：美術
- ・ テーマ：身の回りの品に付けるオリジナル模様をデザインする

知財創造教育の説明会

- ・ 内閣府資料「知財創造教育～新しいモノ・コトを楽しく創る～」で説明
- ・ 北海道地域の活動は「平成30年度 調査事業報告書」要約版で説明

11名参加

意見交換会

- ・ 教育プログラム授業には高い評価の一方、学習指導要領上の位置付けとの関係を論議
- ・ 学校教育での知財創造教育の必要性を再認識

12名参加

